



2期生 (法学部 法政策学科)

# 山下 真歩

## 自分の信じる道を 真っすぐ歩いていく



### 01 生まれと育ち

温かい田舎が育んだ元氣娘

1995年(平成7年)、静岡県は磐田市で4人兄妹の末っ子として生まれた。兄妹仲が良く、2人の姉とすぐ上の兄の背中をいつも追いかけて回っていた。その影響で、色々なものに興味を持って取り組んだ。ピアノ、手芸、漫画、英語、藝、剣道・・・などだ。特に、兄妹揃って3歳から10年間続けたピアノと、兄の影響で中学に始めた剣道は、熱心に取組んだ。



また、実家を中心に、隣近所に親戚が住んでおり、幅広い年代の人と深い交流関係にあった。共働きの親に代わり、親戚に毎日遊んでもらっていた。まるで、祖母・兄弟のような存在が十数人いるかのようで、大変賑やかな環境だった。

このように、幅広い年代の人が多く集まる特殊な環境で育ったことから、色々なものに興味を持ちたり、幅広い年代の人ともコミュニケーションを図ったりするように

### 02 大学生になってからのこと

むすびわざとの出会い

高校時代、文武両道に大苦戦して迎えた大学受験の結果は、散々だった。当然、大学の入学を迎えても、曇った心は変わらない

### 03

長期有給インターンシップ

「不満や不安に耳を傾けることが大事」

3年次に参加した4カ月のインターンシップでは、主に、「働くとは何か?」やアクティビティスニングという「ミニユニケーション」の方法を学んだ。しかし、結局、それ以外に「これ!」という手ごたえや成果を見出すことなく、インターンシップは終わりを迎えてしまった。言うのも、同期との意思疎通が思うようにいかなかったり、職場のイメージにギャップを感じ、対応に時間が掛かったりしたからだ。

実社会での学びの機会を無駄にってしまったことに、とても後悔した。ところがある日、転機が訪れる。インターンシップ中の活動の記録を手に、仲間と振り返りをしていたときのことだ。ふと、「もし、インターンシップ中に、自分の不満や辛い思いを相手に伝えられていたら、もっと同期や職場の方と向き合っていたのではないか」という思いがよぎった。自分がインターンシップを失敗した原因は、「弱音や不満を出さないことが強さ」だと信じていたことだった。中学・高校と剣道部で「いろいろな不満があっても、表に出すな」と教わっていたためである。仲間との対話が、「自分の、本当の気持ち」を言葉にする大切さ」に気づかせてくれたのであった。

### 04

これからのこと

キャリア選択を自分でする

これまでの人生を振り返った時に、人にやらされたことと、失敗があっても自分で選んだこととは、どちらが幸せだっただろうか? 私は、絶対的に後者だと思つた。今までは、進路選択のような大きな選択が迫った時、自分では決められず、人の言うことを聞いていた。しかし、それでは本当の幸せは掴めないと思う。だからこそ、これからは自分で選択をしていきたい。

先のインターンシップで、自分が働く目的は、「仕事で身に付けたことを生かして家族や友達を幸せにするため」だと分かった。そして、事後学習では、自分が人生に求めていることは、五感を全部使うような刺激的な体験をすることだと気づくことが出来た。

知らない世界・人を知ったり、既に知っている人や物事への理解をさらに深めたりしていく中で、刺激的な体験をしていきたい。そこで得た能力や知識を、家族や友人のために使いたい。そのためには、失敗があっても構わない。

### 05

大事にしたいこと

自分が出来ることを考える

過去を振り返ると、これまで勉強をするという感覚で学習した経験が少ないように感じた。ピアノや剣道、学校の授業もだ。



その理由は、いつも「楽しい」、「もっとやりたい」という気持ちがあったからだと思う。このようなポジティブな気持ちは、周りの人なしでは持ち得なかっただろう。楽しませながら勉強を教えてくれた親、物事に取り組む時に、競争相手や目標になってくれた兄弟や友人たち。このような人達に恵まれていたからこそ、困難や苦しささえも、その先の楽しさや喜びのためのスパイスになっていた。だからこそ、この先も大事にしたいと思うのは、周りの人との良い関係作りだ。一対一の関係にしても、チームでの関係にしても、自分がその人たちと良い関係を築くために、行動に移す必要がある。むすびわざで学んできた今、私が出来ることがは、自分がチームに良い影響を与えられるよう、さらにチーム活動における能力を高めることだと考えている。

一緒にいる人達が、心地良く感じる環境や関係を作る担い手になれるよう、早く社会に出て、たくさん揉まれ、成長したい。それが、大好きなみんなのために、私に出来ることだ。

だった。そんな中、「1年次の期間だけ、友達作りに」と大学の女子寮に入って生活した。

ところが、周りの友人たちが、部活やサークル、留学・・・と、大学生活を充実させている姿を間近で見ると、何もやっていない自分に対して心底焦りを感じた。進路を自分で決められず、周りの言葉に流されて大学に入ってきた自分とは大違いだった。

それからは、自分を成長させることが出来る何かを探し求めた。手当たり次第に学内外のイベントに参加したり、親の目を盗んで学内のアルバイトをしたりした。

そしてついに、むすびわざコーポプログラム(以下、むすびわざ)に出会った! むすびわざへの動機は2つ。1つ目は、寮生活を共にした1つ上の先輩である西坂さんがいたからだ。当時、プログラムの幹事長兼女子寮の寮長をしていた西坂さんは、人前でも堂々としており、憧れの的だった。動機の2つ目は、面接や体験授業を通じて、願いに近づくための方法(問題解決のプロセス)を学びたいと思つたからだ。

問題解決のプロセスが何かは分かっていたが、先輩や先生の姿を見たことで、自分が高校のときから抱いていた劣等感を取り除く方法を学ぶことが出来るという直感が働いた。そして、面接も無事通過し、2年次の事前学習を副幹事長として取り組んだ。



### 19歳 むすびわざ 世界を広げる出会い

社会人の方やむすびわざの仲間が、一歩踏み込んだからこそわかる発見を与えてくれる。

### プロフィール

1995年7月10日、静岡県の田舎生まれ。夢は「働くことで、家族や友人を幸せにすること」、「実家の土地や家を兄妹力を合わせて守ること」。3歳から10年間、個人とグループの2つのピアノレッスンを受け、表現力を高めた。中学・高校には、兄の影響で剣道部に所属し、青春を捧げる。「一度やったら最後までやり切れ!」という親の指導を受けたおかげで、継続して物事に取り組む姿勢が身に付いた。そのおかげで、上手いかわないことがあったときにも、簡単には折れない心と身体が出来た。

### 16歳 高校剣道 役割葛藤する

勝ってチームに貢献したいと思い、引き分けてチームの流れを繋げる役割に葛藤した。

### 苦野 秀幸 (3期生)

プレゼン作成が上手くいかず元気がないときに、山下さんが僕を鼓舞してくださったことは鮮明に覚えています。山下さんの笑顔で元気になれるむすびわざ生はたくさんいます!

### 13歳 中学剣道 人格の土台作り

他県の中・高生と厳しい練習を続けたことで、部員の大切さや自分を律することを学んだ。

### 先輩・後輩からのメッセージ

### 西坂 真紀 (1期生)

彼女はいつも元氣パワーが溢れているアイドル的な存在。このセミナーの集合写真を撮る際は、決まって彼女の掛け声で皆が笑顔になる。何でもまずはやってみる姿勢で実行力がある。